

科学者としてのバードウォッチャー 市民科学・市民調査の社会学的研究

明治大学大学院農学研究科 高田 陽

背景

市民科学とは

市民科学≡市民が科学的な研究や活動に参加・参画すること

- 市民科学とは、市民が科学のプロセス（仮説・計画づくり・データ収集・考察・発表）に参加・参画する調査研究のことを言います。多くの方々と調査を進めているバードリサーチの調査も市民科学の一つです。
- 市民科学の手法は欧米で特に進んでいます。国土レベルの広域を長期モニタリングすることが可能であり、そういったデータは鳥類の調査研究・保全政策に活用されています。



科学者と市民が協力し・・・

研究！
保全活動！
政策提言！

社会学的な課題

多くの人に継続参加してもらうためにはどんな工夫が必要か？
参加しやすいプロジェクトや参加者のメリットは何か？

目的

どんな人たちが市民科学プロジェクトに参加しているの？
どうすれば研究にとっても、参加者にとっても良いプロジェクトになるか？
参加者やバードウォッチャーの調査からこれらを解明します！

これまでの成果

2017年から2018年にかけて全国鳥類繁殖分布調査の参加者の方について調査を実施しました。

1. どんなバードウォッチャーが参加したか
普段のバードウォッチングについての分析から4つのグループに分類しました（図1）。

- **グループ1. 観察・写真撮影が好きなタイプ**
色々な場所での鳥見が好き・グループでのバードウォッチングもする
- **グループ2. 探鳥会が好きなタイプ**
決まった場所での鳥見が好き・探鳥会にも参加している/興味がある
- **グループ3. ハイアマチュアタイプ**
一か所で鳥を見ることが多い・少人数・一人でのバードウォッチングが多い
- **グループ4. 色々な野鳥を観察・識別タイプ**
色々な所に行きバードウォッチングをする・少人数や一人でバードウォッチングすることが多い

2. どんな理由で参加している？

◎ **個人の楽しさ/利益+目的への共感 ⇒ 参加**

個人の楽しさと目的へ共感の両方が必要と示唆された（図2）。個人の楽しさには様々なものがあるが、調査経験や観察記録を付ける習慣が影響していると推察される。

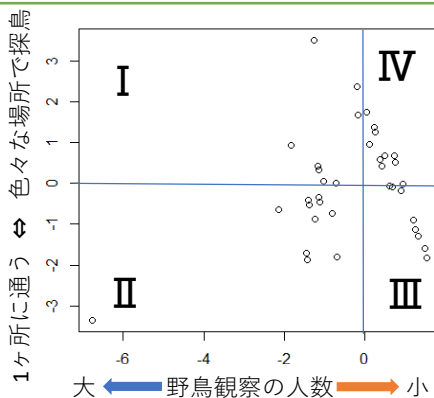


図1 全国鳥類繁殖分布調査の参加者の分類
6問の質問（1.少人数のバードウォッチングをよくする 2.探鳥会によく行く/興味がある 3.色々な場所によくバードウォッチングをしに行く 4.一か所に通うことが多い 5.観察記録を普段からつけている 6.写真を撮るのが好き）に対する はい/いいえの回答から参加者を分類した。解析の結果、探鳥時の人数についてと、場所に関する好みから分類された。それぞれの○が回答者を表す。

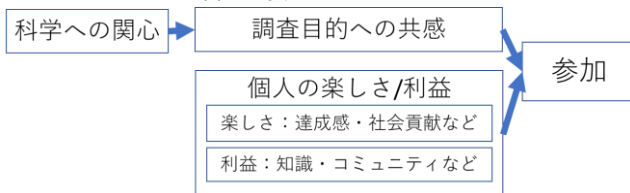


図2 参加動機の意識構造

実際の参加には二種類の参加が必要
調査目的への共感（科学への関心/理解）から生まれる

目的

①複数の市民科学プロジェクトの参加者・参加動機を明らかにする

国内にはバードリサーチ以外にも沢山の市民科学や市民調査を実践している団体がたあります。それらの団体はどのように調査や研究を続けているのでしょうか。そこに参加している方々はどんな思いで参加しているのでしょうか？

②調査体験の市民や社会への効果を明らかにする

探鳥会や講習会と異なる調査体験に固有の効果はあるのか。長期間の保全を地域で続けていくための要素を解明します。

方法

活動への参与観察やアンケート、インタビューを行います。予算は交通費やアンケート郵送費に活用します。

全国にいる市民科学者たち 今後調査する予定のプロジェクト

全国鳥類繁殖分布調査とは異なるプロジェクトを調査
→参加者の共通点・相違点はどこか？

①宮古島のサシバ保護活動

- ・宮古野鳥の会と伊良部中が40年続けているモニタリング活動
- ・サシバの密猟の撲滅を成功
- ・地域の保全意識を向上
- ✓ 中学生が自主的に多数参加
- ✓ 調査体験の生徒への効果
- ✓ 中学校三年間での意識の変化

②ドバトプロジェクト

- ・身近な生き物を簡単な方法で調査
→より色々な参加者が参加する可能性
- ✓ どんな人が？どんな参加動機で？
- ✓ 新しいプロジェクトの立ち上げから関わる事で調査参加前後の意識の変化や普及の過程を解明できる

- ・他の市民科学・市民調査を実践している団体でも実施予定ですが、現在、交渉中ですので詳細については省略いたします。
- ・調査への参加の有無に問わずアンケートやインタビューでのご協力もぜひよろしくお願いいたします。（特に、関東圏にお住まいの皆様よろしくお願いいたします！！）

